

法華寺庭園の調査 (平城第632次)

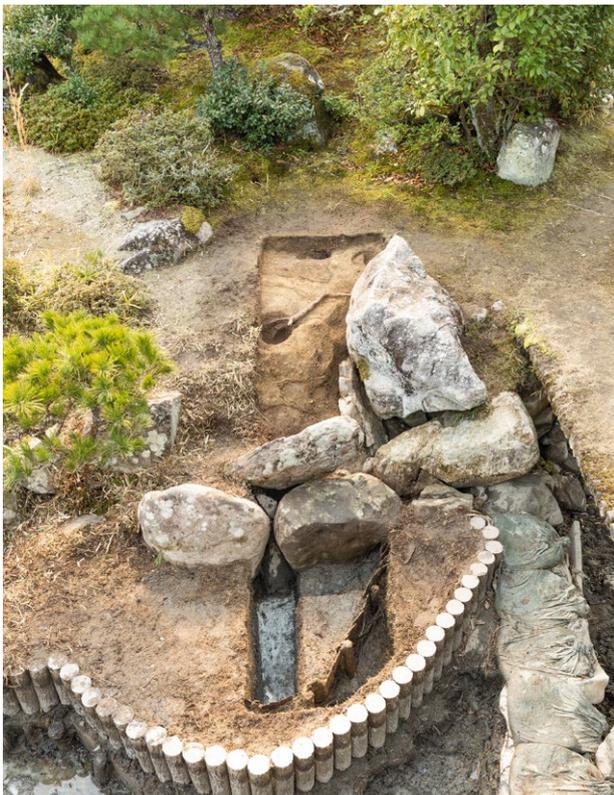
法華寺庭園は、法華寺客殿にともなう庭園です。奈文研ニュースNo.77でもお伝えしたように、本庭園は2019年度から保存整備事業の一環で発掘調査を実施しています。今年度は池北半部を対象に、傾いた築山景石の据え付け状況や池護岸の変遷を解明することを目的として調査をおこないました。

築山北面に設定した調査区(Aトレンチ)では、築山を造った造成土を検出しました。くわえて景石との間に空隙を確認したことから、景石の一部は原位置から動いていることがわかりました。また、現在の法華寺庭園を訪れる皆さんの目を楽しませているカキツバタが植えられている柵の変遷についても確認し、カキツバタの群生範囲が徐々に拡大していたことをあきらかにしました。

池北岸に設定した調査区(Bトレンチ)でも池の護岸の変遷を確認し、岸上では時期は不明ですが礫敷きによる舗装面を確認しました。

今回の調査を通じて、客殿側から庭園を眺める際に重要な要素となる景石が実は原位置をとどめておらず、池の護岸についても時期的な変化があったこと等がわかりました。これによって、今後の保存整備事業を進めるうえで重要な知見を得ることができました。

(都城発掘調査部 小田 裕樹)



Aトレンチ調査区全景 (北から)